

生きられた新宿 1975-2025 早稲田大学会場企画

1975年、建築家ピーター・グラック、歴史家ヘンリー・スミス、評論家多木浩二がMoMAで「SHINJUKU: THE PHENOMENAL CITY」展を企画しました。新宿は20世紀を通じて商業・文化の先進性と社会的うねり、計画的秩序と自然発生的混沌が交錯する特殊な都市空間として発展してきました。同展では入江経一、鈴木明、真壁智治ら若手建築家

や中川道夫ら写真家が、写真・フォトモンタージュ・オブジェ・地図や大型の「経験図」を用いて新宿の特異性を表現しました。展覧会は米国内を巡回して高く評価されましたが、日本での公開はありませんでした。

今回50年ぶりに展示資料が東京に戻り、回顧展が開催されるとともに、WHITEHOUSE（百人町）での“Parallax City”、

王城ビル（歌舞伎町）での“「状況」劇場”、工学院大学（西新宿）での“都市の経験 1975-2025”という三会場で新世代による作品が展示され、早稲田大学の原資料公開と連動して「生きられた新宿」が描き出されます。

*展覧会にはシンポジウム、演劇、ギャラリートークが併催されます。

生きられた新宿 1975 原資料特別公開

1975年ニューヨーク近代美術館

“SHINJUKU: THE PHENOMENAL CITY”展の原資料

「生きられた新宿」展開催の一環として、1975年にニューヨーク近代美術館（MoMA）で展示された大型図面（「経験図」）の現存するものと関連資料を早稲田大学14号館の一階展示室で公開します。図面作者の下書き、企画者多木浩二らのメモ、MoMAに展示された食品サンプル（現物）、会場の写真など貴重な資料も展示します。

主催：早稲田大学社会科学総合学術院、「生きられた新宿」実行委員会
協力：早稲田大学文化企画課

会場：早稲田大学 14号館 1階特別展示室

会期：2025年10月25日（土）～11月15日（土）
月曜日～土曜日 12:00-18:00 日曜祝日は休

会期にご注意ください 10月30日～11月3日（早稲田祭期間）、9日日曜日は閉室です。シンポジウム開催の10月26日は、催事前後の時間（12:00-13:00, 16:45-18:00）に開室します。

オープニング・シンポジウム

1975年展の関係者と2025年展の関係者が一堂に会し、展示作品を紹介しつつ新宿の過去と現在を俯瞰するシンポジウム

プログラム

- 13:30 開催の挨拶：佐藤洋一（早稲田大学）
13:40-14:30 パネル1 MoMA展と新宿の歴史を振り返る
司会：ジョルダン・サンド（ジョージタウン大学・國學院大学）
ヘンリー・スミス（コロンビア大学）× 真壁智治（M.T.VISIONS）× 初田香成（工学院大学）
× ホルヘ・アルマザン（慶應義塾大学）
14:40-15:30 パネル2 2025年「新経験図」の挑戦
司会：宮園侑門（アムステルダム芸術大学）
椋原徹（工学院大学）× 中島直人（東京大学）× 吉江俊（東京大学）
コメント：真壁智治
15:40-16:30 パネル3 写真・映像の新宿1975-2025
司会：佐藤洋一
中川道夫（写真家）× 齋藤直紀（GROUP / 東京大学）

会場：早稲田大学 8号館 106教室

日時：2025年10月26日（日）13:30 - 16:30
一般公開・入場無料

